

## 糖代謝異常妊婦における胎児Fractional limb volumeについての検討

著者	池ノ上 学, 秋葉 洋平, 遠藤 豊英, 春日 義史, 落合 大吾, 宮越 敬, 矢久保 和美, 田中 守
雑誌名	DOHaD研究
巻	8
号	3
ページ	39-39
発行年	2019
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10271/00003629">http://hdl.handle.net/10271/00003629</a>

## 糖代謝異常妊婦における胎児 Fractional limb volume についての検討

池ノ上学<sup>1)2)</sup>, 秋葉洋平<sup>2)</sup>, 遠藤豊英<sup>1)2)</sup>, 春日義史<sup>1)</sup>,  
落合大吾<sup>1)</sup>, 宮越敬<sup>1)</sup>, 矢久保和美<sup>2)</sup>, 田中守<sup>1)</sup>

- 1) 慶應義塾大学医学部 産婦人科学教室
- 2) さいたま市立病院 産婦人科

### 【背景・目的】

胎児 Fractional limb volume は、四肢の筋層や脂肪層などの胎児軟部組織の容量を反映し、出生体重の予測に有用であることが報告されている。また、糖代謝異常妊婦では妊娠後期に胎児上腕の脂肪蓄積量が増加し、肩甲難産との関連が示唆されている。今回、糖代謝異常妊婦における胎児 Fractional limb volume の発育を正常妊婦と比較することを目的として、本研究を行った。

### 【対象・方法】

対象は妊娠 20 週から 37 週に胎児超音波検査を行った、正常耐糖能妊婦 (Normal glucose tolerance: NGT 群) 119 例 (のべ 200 計測) と糖代謝異常妊婦 (Diabetic pregnancy: DP 群) 34 例 (妊娠糖尿病 32 例、糖尿病合併妊娠 2 例、のべ 70 計測) である。Lee W. らの方法を用いて、胎児上腕および大腿の中央 1/2 を 4 つのスライスに分割し、その断面積の積分値をそれぞれ上腕部分容積 (AVol) および大腿部分容積 (TVol) とした。妊娠期間を 2 週ごとに 9 つの期間に分け、T 検定を用いて NGT 群と DP 群における AVol および TVol を比較した。

### 【結果】

AVol、TVol とともに、妊娠週数とともに指数関数的に増加し、特に妊娠 30 週頃から増加速度が上昇した。AVol は妊娠 20 週から 31 週では NGT 群と DP 群で有意差を認めなかったが、妊娠 32 週から 37 週では DP 群で有意に高値を示した ( $p < 0.05$ )。一方で、TVol は妊娠期間を通じて両群間で有意差を認めなかった。

### 【結論】

糖代謝異常妊婦では、妊娠 32 週以降で AVol が高値を示した。AVol は糖代謝異常妊婦における胎児発育異常のマーカーとなることが示唆された。